生物多様性条約

ことば　地球上の多様な生物の保全、生物資源の持続可能な利用、遺伝資源の利用から生ずる利益の公平な配分などを目的に、1992年に採択され、日本は93年に批准した。締約国は、生物多様性保全のために国家戦略を策定し、重要地域や保護対象種などを指定し、取り組み状況を事務局に報告する。

遺伝子組み換え生物を規制の対象とし、医薬品や遺伝子治療を受けた人間は除外した。

対象となる組み換え生物のうち、種子など環境中に直接放出されるものは、輸

換え生物の貿易を規制する議定書が出来たのは大きな前進だが、食用穀物が事前通告手続きの対象から外れたのは残念だ。これらは種子と同じで、流通過程でこぼれて繁殖する恐れがある

繊維が油を大量吸着

東大など共同研究　廃油除去に威力発揮？

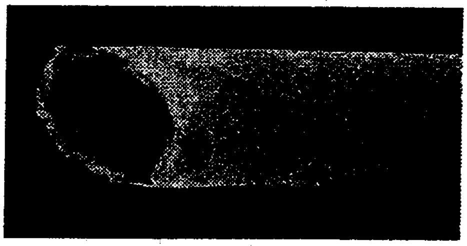
インドの高木「カポック」

インド原産の高木でアジアに広く生息する「カポック」の実から取れる繊維が石油などの油を大量に吸着することが、東京大アジア生物資源環境研究センターと豪ラ・トローブ大、フィリピン大学の共同研究で分かった。ストローのように中空になった繊維が水をはじき、油だけを吸収するためで、海洋や湖沼の廃油汚染の除去などに力を発揮しそうだ。成果は近く日本木材学会誌に発表される。

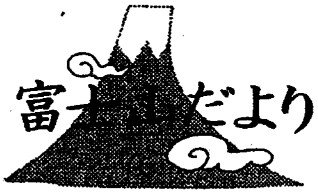
カポックの実は長さ10センチほどの長円形で、熟すと裂け、綿のような長い毛に包まれた種が出る。この種毛は保温性や弾力に富むためクッションやまくら、キルティングの詰め物に使われている。

研究グループは、カポックの種毛が水に浸してもぬれないことから、繊維を電子顕微鏡で観察し、内径約8マイクロメートル（マイクロは100万分の1）の微小な筒状になっていることを突き止めた。ビーカーの中に100グラムの水と赤く染めた機械油10グラムを入れ、カポック繊維0・2グラムを混ぜ合わせると、繊維は瞬時に赤く染まり、油をよく吸着することも分かった。油は表面張力が小さいため繊維の狭い空洞にも入り込むが、表面張力が大きい水は入り込めないらしい。

同センターの飯山賢治教授（資源環境学）は「カポック繊維1グラムで40グラム以上の油を吸収できる」と話している。【松村由利子】



電子顕微鏡で撮影したカポック繊維＝飯山教授提供



トンボの楽園つくろう

休耕田に「池」第1号

静岡・御殿場　愛好家を市も後押し

富士山ろく東側の静岡県御殿場市で、トンボの飛び交う生息環境を取り戻そうという試みが進められている。市内では東名高速道路建設などでトンボのすみかになる沼池やため池が消滅したため、市もバックアップして、1月には地元のトンボ愛好家らでつくる「富士山トンボ池の会」（加須屋真会長）が休耕田に「トンボ池」第1号を造った。同会は「池を増やしてトンボの楽園にし、子供の環境教育などにも役立てたい」と意気込んでいる。

同会は、国際トンボ学会会員の加須屋会長を中心に静岡、神奈川両県の45人で昨年10月末に結成された。「富士山を生かしたまちづくり」を目指す同市も補助金（今年度10万円）を出すなど活動を支援している。

トンボ池第1号は、会員の農家から提供された標高約500メートルの休耕田を重機で造成し、1月に上の池（48平方メートル）と下の池（128平方メートル）の二つの池が完成した。二つの池は水路でつながれ、水深は最高約60センチ。木立のすき間からは富士山を望める。浅い部分を湿地状態にするなどトンボが産卵や羽化をしやすいように配慮されている。

アキアカネのほか、寒冷地に生息するオオルリボシヤンマやルリボシヤンマなど20種類以上がすみ着く可能性があり、今夏にも産卵、羽化するトンボの姿が見られそうだ。

加須屋会長は「この地域に本来生息していたトンボが見られると期待している。県内外から子供や大人に来てもらい、自然を学ぶ生涯学習の場にしたい」と話している。【遠藤和行】

毎日新聞は環境破壊が進む富士山の再生を支援するキャンペーンを行っています。ご意見や富士山に関する情報をお寄せください。あて先は、〒100―8051（住所不要）毎日新聞東京本社　創刊130年記念事業委員会事務局（☎03・3212・0868、ファクス03・3212・1170）です。

Think Globally Act Locally

地球の仲間たち

海に生きる

カリフォルニアアシカ

米国サンフランシスコの観光スポット、フィッシャーマンズワーフでは、野生のカリフォルニアアシカを間近に、しかも簡単に見ることができる。入り組んだふ頭の一角に木製のはしけが据えつけられ、アシカはその上で休んだり、ウォッ、ウォッとけたたましい声を上げている。この写真は、そこから200キロ近く南下したモンテレーという町の近くにあるポイントロボス州立公園で写した。なぎさ近くにある岩の上にたくさんのアシカや海鳥たちが集まるパラダイスである。【写真家・吉野信】

夢を追う

た商品をテーブルに並べ、東京グリー…会会長の板橋和子…＝東京都府中市…りした。歯ブラシ…カミソリ、ゴミ袋…べて植物を原料に…分解性プラスチッ…という。

家庭の雑排水の…らしたり、環境に…を選ぶことを呼び…動に1970年代…組んでいたが、…物に分解されて…ラスチックがある…ら聞いた。

「そんな素晴ら…があるなんて」と…早速、群馬県富岡…スチック成形業者…生活用品を試作し…た。それが生分解…チックとの出合い